

## O1-057

大阪府における妊娠届出と妊婦健診受診回数  
～妊娠届出と受診回数を促す要因の検討～

佐藤 拓代

大阪府立母子保健総合医療センター

## 【目的】

厚生労働省の子ども虐待による死亡事例等の検証結果等から、死亡事例の背景に妊娠届出がなされず妊婦健診も受診していない状況が指摘されており、特に生後0日は望まない妊娠が多くほとんどの事例にこれらの背景があるとされている。大阪府における自治体の妊娠届出受理等の状況から、妊娠届出と妊婦健診受診を促す要因について検討する。

## 【方法】

大阪府内のすべての市町村43カ所を対象とし、平成28年12月に郵送による調査を行った。

## 【結果】

全市町村から回答があった。妊娠届出の受理場所は保健センターや市町村母子保健担当部署が97.7%、市区町村役所25.6%、その他23.3% (MA)であり、保健師の全数面接は、それぞれ92.9%、18.2%、10.0%に行われており、保健師の勤務場所でないところでは面接が少なかった。妊娠届出の条件は医療機関等の妊娠証明0%、妊娠反応で陽性0%、医療機関で妊娠確定48.8%、要件はないが46.5%であった。受理する要件は、住民票がある44.2%、居住実態がある14.0%、原則住民票が必要39.5%、住民票の有無は確認しない2.3%であった。DV等で住民票を移さないまま転々とする妊婦に対して、約半数の自治体が届出を受理していた。妊婦健診受診券(補助券)は約10万円の価値があるが、交付は住民票がある場合のみ52.4%、住民票がなくても発行する場合あり46.5%で、これもDV等で住民票がないところにいる妊婦への配慮が行われていた。大阪府の平成26年度の妊娠11週以内の妊娠届出率は93.7%、妊婦健診平均受診回数は10.2回であり相関はなかったが、健診受診回数10回以上の17自治体と8回未満の26自治体では $r=0.413$ 、 $r=0.3644$ と弱い正の相関があった。この2群では、医療機関で妊娠確定が前者で58.8%、後者が42.3%と違いが見られたが有意差はなかった。

## 【考察】

平成29年4月から子育て世代包括支援センターを市町村が設置することになった。ここでは妊娠届出時の全数面接を目指し、支援が必要な妊婦に支援プランを作成するとされている。しかし、妊娠届出から始まっており、妊娠・出産・子育ての切れ目ない支援のためには妊娠届出を行いやすく、また妊婦健診を受診しやすくするとともに、保健福祉医療の連携による情報共有が必要である。

本研究は、厚生労働科学研究「妊婦健康診査および妊娠届出を活用したハイリスク妊婦の把握と効果的な保健指導のあり方に関する研究」による。

## O1-058

## 気管切開児の養育者が感じる大変さや術前に医師に聞いたかったことを質問紙調査の自由記載から計量テキスト分析で明らかにした

古藤 雄大、森田 晟也

大阪府立母子保健総合医療センター 看護部

## 【目的】

気管切開孔を有する小児を在宅で介護する養育者は、夜間の吸引や予定外抜去の予防、移動時の物品が多いことなど、介護負担が大きいと考えられる。しかし、文献による検討では、重症心身障害児を介護する養育者の介護負担に関する調査はあるが、気管切開児に注目したものはなかった。今回は養育者の介護負担について質問紙調査を行った。その中で養育者が大変だと感じることで、医師に聞いたかったことを自由記載にて回答を求めた。これらを分析することで、具体的な介護の実態や支援策を検討することを目的とした。

## 【方法】

当センターで外来受診を行っている気管切開児91名の養育者を対象に質問紙調査を行い、51名から回答を得た。質問紙は外来主治医より配布し、回収は郵送法とした。回答の中から、大変だと感じることで及び医師に聞いたかったことに関する自由記載での回答についてkncoderを用いて計量テキスト分析を実施した。分類されたカテゴリーは信頼性の検討のため研究者間で一致率の確認を行った。

## 【結果】

養育者が大変であると感じているものは「子どものケアや体調のこと」「子どもの体が大きくなること」「親の年齢と介護力への不安」「学校への送迎やケア」「家での生活やプライベート行事に制限があること」「子どもの体調が悪い時の夜間のケア」「外出時のケア」「カニューレの抜去」「親が体調を崩した時」の9つのカテゴリーが抽出され、一致率 $a$ は0.79であった。養育者が医師に聞いたかったことは「喉頭分離」「介護やケアが増えること」「手術や術後の在宅生活」「外出の大変さ」「動脈婁やカニューレの抜きリスク」「穴ができることに対する家族の気持ち」「声が出ないことと子どもの身体状況についての葛藤」「重大な決断であること」「昔のことなので忘れた」の9つのカテゴリーが抽出され、一致率 $a$ は0.81であった。前半5つのカテゴリーは医師に聞いたかったことであるが、以降の4つは医師への要望等が分類された。

## 【考察】

今回の結果から気管切開児の養育者が感じる大変さや術前に求めていた情報が明らかとなった。また、計量テキスト分析での分類は内容分析法でも一致率が高い結果であったものの、本来の検討対象と異なるものを含む可能性が示唆された。